

ノルウェーから来た研修生

内 藤 博 夫

昨年の6月14日、1人のノルウェー人の青年が日本人の学生にとまなわれて私の家を訪れた。名前はスタイナー・フォーニスといい、ノルウェー中部のフィヨルドに面した都市トロンハイムの工業大学の学生である。機械工学を専攻しているとのことだった。来日した目的は北八王子工業団地内にある計測器メーカーの工場で1ヶ月半の技術研修を受けるためである。この工業団地は私の家から歩いて15分ほどの所にある。偶然のことから私の家は研修期間中、彼の宿舎に当てられることになっていた。そこで来日した日の翌日、彼は私の家にやってきたのである。

スタイナーを私に紹介してくれたのはイアエステ・ジャパンという団体だった。イアエステとは the International Association for the Exchange of Students for Technical Experience の略称IAESTEのこと、日本語の正式名称は社団法人日本国際学生技術研修協会である。イアエステ・ジャパンの財政は主に企業からの寄付でまかなわれているが、文部省からも若干の補助金をえている。イアエステは外国で技術研修を受けるという方法で工学系学生の国際交流をすすめている。その運営は学生によって行われている点に特色がある。現在加盟国は日本を含めて49ヶ国である。日本は1964年に準加盟し、1968年に正式加盟した。例年日本から外国へ派遣される人数および日本が外国から受入れる人数はそれぞれ70名前後である。イアエステ・ジャパンは、東大、東工大、早大などの学生を中心に運営されているが、工学系という制約のためかお茶大生の参加はまだないようである。あとでわかったことであるが、スタイナーはイアエステ・ノルウェー国内委員会の代表委員をつとめており、今回選ばれて日本へ派遣されることになったのである。

スタイナーにはなるべく日本の生活になじんでもらうために和室を提供することにした。覚悟していたとみえて蒲団の生活にすぐ慣れてくれた。また和食に対してほとんど抵抗がなかったので助かった。箸の使い方は前もって練習してきたらしく、日本人同様に使

いこなしていた。スタイナーと暮らしていて驚いたことは、未知の土地に対する彼の旺盛な好奇心だった。週末になると必ずどこかへ出かけていく。日本語を理解しないためか電車やタクシーは利用しながらない。八王子から新宿または渋谷までは電車で行くが、そこから先は歩くのである。この方法で代々木公園を経て上野公園まで踏破してしまった。途中で東京タワーにも登ったという。もちろん私の家族も八王子市内やその近辺を案内することにつとめた。一緒に浅草寺見物に行ったこともある。彼は東京だけでなく他の主要都市も見ておきたいという希望をもっていたが、時間と費用の問題があって旅行先はなかなか決まらなかった。最初に彼が出した候補地は札幌だった。冬季オリンピックが開催された土地だからというのがその理由である。いかにもノルウェー人らしい発想なので興味深かったが、断念せざるをえなかった。次の候補地は広島だったがこれも実現しなかった。結局、京都・大阪とすることで落ち着いた。この旅行には私が案内を買ってでることになった。またこれにはスタイナーの友人で川崎の工場で研修を受けているスウェーデン人の学生と私の長女も加わるようになった。7月25、26日の両日、私たち4人は、炎天下の大阪と京都を訪ねた。大阪では大阪城と道頓堀を、京都では京都御所、二条城、銀閣寺、清水寺を見て回った。2人の研修生はいずれも日本の科学技術の水準を理解できる立場にあるが、日本の家庭生活や京都に代表される日本の伝統文化に接して、彼らの日本理解がより広く、かつ深くなってほしいと思った。2人ともそれなりに古都の風情とその文化財に感銘していたようだった。

8月1日、スタイナーは研修を終え、工場から修了証書を貰って帰国の途についた。日本での研修体験は大学の履修単位に数えられるのだそうである。ヨーロッパの大学は私たちの想像以上に国際化しているようだ。将来、世界のどこかで彼と再会し、その成長ぶりを見とけてみたい。これは家族全員の一致した願望である。